

セクシャリティの問題（女性）

がんの治療は、治療中や治療後の性生活に影響することがあります。がんの治療で体や心が変化すると、がんと診断される前や治療を受ける前とは、性生活に対する考え方が変わったり、性生活に気持ちが向かなかったりすることがあります。

原因は. . . .

抗がん薬の影響

- ・一部の抗がん薬は卵巣の機能に影響を及ぼすため、女性ホルモンの分泌が低下します。女性ホルモンの分泌が低下すると、膣の粘膜が乾燥して、セックスが難しくなったり、痛みを感じたりすることがあります。

精神的なストレス

観察ポイント. . .

- ☐ 膣乾燥症
- ☐ 性欲低下、オルガズムの低下
- ☐ 性交痛
- ☐ 月経周期の乱れ
- 更年期様症状、無月経、早発閉経、不妊など
- ☐ 抑うつ

こんな時は相談しましょう

- ◇ 聞きづらいこともあると思いますが、治療を受けている期間やその直後は、セックスをしてもよいか、いつ再開したらよいかについて、体のことをよく知る担当医に確認してみましょう。
- ◇ がん相談支援センターのがん専門相談員にも困り事や悩みごとについて相談することができます。がん相談支援センターでは、必要に応じて院内や院外の専門職を紹介してもらうことができます。
- ◇ 患者サロンなど、同じような体験をした人と話ができる場に関する情報をもらえることもあります。
- ◇ 相談したり、話をしたりすることで気持ちの整理ができたり、解決の糸口が見つかるかもしれません。性のことをオープンに話すことは抵抗があるかもしれませんが、一人で抱え込まず、安心して相談できる場を利用しましょう。

セクシャリティの問題に対して．．．

◇ パートナーへの影響

- ・抗がん薬治療中やそのあとは、膣分泌物に薬の成分が含まれることがあります。そのため、薬物治療を受けたあとしばらくの間は、パートナーが薬の影響を受けないように、コンドームを使うなど対応が必要となることがあります。
- ・月経周期が乱れた場合、妊娠との区別がつかないことが稀にあります。望まない妊娠を避けるためにも治療期間中は避妊しましょう。



◇ 感染や出血

- ・抗がん薬の副作用で、白血球や血小板の数が少なくなる時期があります。その時期は、感染や出血予防のためにセックスを避けましょう。白血球や血小板の数が回復したあとは、セックスを再開することができます。
- ・セックスによって出血した場合、少量ですぐに止まれば様子をみてよいですが、多量だったり、止まらなかつたりするときは、医師・看護師に相談しましょう。

◇ 性交痛

- ・セックスに痛みがある場合には、我慢せずにパートナーに伝えましょう。その時には痛くない触れ方も伝えてみてください。前戯の時間を長くしたり、水溶性の膣潤滑ゼリーを十分に使うことで膣の潤滑がよくなり、痛みが軽くなるかもしれません。体位の工夫や、膣に力を入れずリラックスすることで痛みが軽くなることもあります。

◇ 少しずつ、ゆっくり再開しましょう

- ・パートナーとのコミュニケーションを大事にして、手をつなぐ、やさしく抱き合う、背中や手足のマッサージなどから始めてもよいでしょう。
- ・セックスは夜だけではなく疲労がたまっていない時間帯を選んだり、負担の少ない体位など、がん治療前のスタイルにこだわる必要はありません。

【引用・参考文献・資料など】

- ◇ 国立がん研究センター がん情報サービス(ganjoho.jp) : 診断と治療＞ がんやがん治療による性生活への影響

https://ganjoho.jp/public/dia_tre/sexual_health_issues/index.html

(検索日：2025 年 2 月 13 日)